

厚生労働科学研究費補助金
障害者対策総合研究事業 障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）
分担研究報告書

弱視ろう・弱視難聴者への文字情報支援の在り方に関する研究

研究代表者 佐藤 匡 特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会 研究員

要旨

コミュニケーション支援の多様性の研究や養成カリキュラムの検討と並行して、盲ろう者の要約筆記利用の現状を確認するために、アンケートや聞き取りを行った。対象者の選定は、全国盲ろう者協会、全聴情協、全難聴から紹介を受けた 158 団体に依頼し、各団体から留め置きや郵送でアンケート用紙を届けてもらい、直接郵送方式で回収した。対象者のアンケート記入の困難さに配慮し、回収までの期間を長めに設定、また、回収したアンケートの例外値の回答は、内容をつかみ取ってできるだけ除外しないこととした。回答のあった 131 通のうち、有効回答 113 人を集計・分析した。39 都道府県から回答が得られ、年齢構成は 50～70 代が中心であった。

盲ろう者向け通訳・介助員を 86 人が利用しており、要約筆記を利用しているのは 41 人であった。盲ろう者向け通訳・介助員を会議で利用しているのは 72 人、要約筆記は 28 人であった。盲ろう者向け通訳・介助員を講演や研修等で利用しているのは 77 人で、要約筆記は 32 人であった。

要約筆記を利用する場合、手書きのノートテイクを見ているのが 25 人、パソコン要約筆記のスクリーンを近くの席で見ているのが 23 人、会場向けのパソコン要約筆記につないで手元で見るのが 18 人、自分向けのパソコンに入力してもらい手元で見るのが 18 人、手書きのスクリーンを近くの席で見ているのが 17 人であった。また、公的制度で要約筆記者を利用しているのは 32 人であり、28.3%（盲ろう者の 3 分の 1 近く）が要約筆記を利用していることになる。文字の見え方についての設問では、半数以上が文字の大きさやフォント、色などを工夫すれば読めると回答したことから、表出の工夫など要約筆記者への追加養成の必要性が明らかになった。

聞き取り調査としては、アンケート調査において、「聞き取りに応じる」と回答した人の中から 10 人に対して調査を実施した。

全国における盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会の時間数調査については、本研究の作業委員から情報の提供を受けた。また、全国における文字情報支援に特化した養成講習会の実施状況調査についても、本研究の作業委員を通して情報提供を受けた。

A. 研究目的

第1回研究委員会・研究作業委員会において、実態調査の実施について次のような議論がなされた。

本研究は、要約筆記事業を盲ろう者が活用できるようにする方法の検討、つまり登録要約筆記者に必要な教育を考えることが目的である。聴覚障害者対象の要約筆記を盲ろう者が依頼することがある。利用可能時間数の不足や、盲ろう者向け通訳・介助員の確保が困難な実態から、移動支援は同行援護を利用し、講演会や会議の場面では要約筆記、または手話通訳を利用するという場合がある。要約筆記は、本来聴覚障害者を対象とする支援であるが、そのような場合盲ろう者からの依頼に対して何ができて、何ができないのかを明らかにしておく必要がある。そのためには、弱視ろう、弱視難聴者など文字情報支援が必要な人を対象に、アンケートや聞き取りをするべきである。つまり本研究においてはニーズの調査が前提となる。

調査対象は、全国盲ろう協会でまとめた4つのパターン（後述）のうち、弱視ろうと弱視難聴者で、その人に文字情報が必要な状況を調査する。「厚生労働省平成24年度障害者総合福祉推進事業 盲ろう者に関する実態調査報告書」（平成25年3月 社会福祉法人全国盲ろう者協会 P26）によると、平成25年1月時点の盲ろう者へのアンケート調査（有効回答 2,744 通）のうち視覚障害と聴覚障害の組み合わせの割合は右上の表のようになっている。

表1 視覚障害組み合わせ（状態）

	人数	割合
全盲ろう	437	15.9%
全盲難聴	1130	41.2%
弱視ろう	211	7.7%
弱視難聴	722	26.3%
無回答	244	8.9%
合計	2744	100.0%

厚生労働省平成24年度障害者総合福祉推進事業
盲ろう者に関する実態調査報告書 P26

盲ろう者友の会という組織が45都道府県にあるので、全国盲ろう者協会に登録している盲ろう者を対象に、盲ろう者友の会と連携して調査するのがスムーズである。第24回全国盲ろう者大会静岡大会で、盲ろう者の参加は263人であったが、その中でパソコン要約筆記希望者が20人くらいであったことを踏まえると、ニーズの割合がおおよそつかめるはずである。ただし、盲ろう者友の会や全国盲ろう者協会に登録していない人も多いという話もある。実際の盲ろう者の数はもっと多いのに、団体に所属していない難聴者、ろう者も多いようである。そのため調査対象は実際より狭い範囲になる。（宮崎県の例では、県の調査で県内の盲ろう者は約190人いることが分かっているが、盲ろう者友の会に登録しているのは10人である。千葉県では、盲ろう者は300人ほどいるといわれているが、盲ろう者友の会で把握しているのは30人である。この宮崎県と千葉県の例は、後述する聞き取り調査の中で明らかになった。）

B. 研究方法

1. アンケート質問項目作成

アンケートの作成について、第4回研究作業委員会まで、以下のような議論がなされた。

アンケートとしては現状の把握のため、難聴者向けの要約筆記派遣を利用したことがあるかないかを確認する。また、盲ろう者向けの通訳・介助員派遣でパソコンや手書きの筆記通訳を利用しているかも確認したい。要約筆記の派遣が、盲ろう者向けの派遣を使っているのかが見えると、ニーズがつかめるかもしれない。現状把握と本当は何を希望しているのかの2段階構えということになる。盲ろう通訳・介助事業の予算が不足しているため要約筆記を使うという場合もあるであろうから「要約筆記だけ」の依頼をした経験は確認したほうがよさそうである。

視覚障害については、見えない、見えにくくなった時期を、聴覚障害については聞こえない、聞こえにくくなった時期を聞くと、コミュニケーションのベースのタイプが分かる。視覚障害については、視力だけでなく視野の確認も必要である。それは視野障害での視覚障害等級もあるからである。

日常的なコミュニケーション手段の受発信をきくと、それが障害のバロメータとなる。たとえば、発信は手話で受信は文字であれば、その人は弱視ろうということになる。文字情報を必要とすると回答者が答えた場合、そこから何をきくかが問題である。たとえば、日常的に文字情報が必要かときき、その文字情報を要約筆記から得ている人に対して実情と改善策をきくというように、対象と内容を絞ったほうがいい。聴覚障害者向けの要約筆記を依頼したことがあるか、もしあるとしたら、会場にある要約筆記で読み取ることができるのか、手元で見たいというニーズはあるのか、隣で表示してもらえないと見えないかといったことも訊ねてみる意味

がある。

全体投影に求めることと個別のノートテイクに求めることを分けて考えるべきである。全体投影の要約筆記がある場面では、それを使おうという発想になるのはやむを得ないことである。しかし、全体投影を無理して使う現状がある。そうではなく、盲ろう者が使いたい支援があるはずである。それを浮き彫りにしたい。

本研究としては、個別のニーズに対応したパーソナルな支援を検討するほうが、幅広く対応できる。たとえば、5文字×5行しか読めないもので要約してゆっくり出してほしいという人や、視野は狭いが視力はあるので、小さな文字でかつ要約せずに話し手の微妙な言葉使いも含めてほしいという要望もあるかもしれない。パソコンによるノートテイクでは、さらに人によって設定が違う場合がある。新谷委員は24文字×7行で画面を見ているが、宇田川委員は17文字×6行で見ている。手書きノートテイクでは、高齢者には大きな文字で書くこともある。そのように盲ろう者の個別の使いやすいニーズを洗い出していきたい。盲ろう者は、現存の要約筆記に加えて「全体的な状況説明」が入るとうれしいと答えるかもしれない。そういったニーズがあるかも知れないのである。

これらの議論を踏まえ、詳細の質問項目を検討した。原案に対する意見をもとに修正案が作られ、それをメーリングリスト上で意見交換して最終的に質問項目を確定させた。

次ページに、確定し配布した「要約筆記者による盲ろう者支援の在り方に関する研究」アンケートを示す。質問項目が増えたため、アンケート枚数は10枚となった。見やすさを考慮して、B4判の用紙に20ポイントのフォントサイズでプリントしたものを使用した。

「要約筆記者による盲ろう者支援の在り方に関する研究」アンケート

お住まい 都道府県 区・市・町・村

年代 20歳未満 20代 30代 40代 50代 60代 70才以上

- * 該当するものに をつけてください
- * 枠内にはわかるところはご記入ください

あなたの障害について

1 見えにくくなったのはいつごろですか

右目 歳ころ
 左目 歳ころ
 視野狭窄 あり なし
 夜盲 あり なし
 現在の視力 右 . 左 .
 視覚障害の等級 あり 級 なし

2 聞こえにくくなったのはいつごろですか

右耳 歳ころ
 左耳 歳ころ
 語音明瞭度 良い 悪い % (わかれば)
 現在の聴力 右 dB 左 dB
 聴覚障害の等級 あり 級 なし

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

1 1人の人との会話

補聴器や人工内耳、FM補聴機器等を使い発言者の声を聞く はい いいえ
 相手に筆談、手話をしてもらう はい いいえ
 手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う はい いいえ
 その他 ()

- 2 数人の人との会話
- | | | |
|------------------------------|----|-----|
| 補聴器や人工内耳、FM 補聴機器等を使い発言者の声を聞く | はい | いいえ |
| その場にいる人に耳元で復唱してもらう | はい | いいえ |
| 手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う | はい | いいえ |
| その他 () | | |

- 3 多数の人の参加する集まり
- | | | |
|------------------------------|----|-----|
| 補聴器や人工内耳、FM 補聴機器等を使い発言者の声を聞く | はい | いいえ |
| その場にいる人に耳元で復唱してもらう | はい | いいえ |
| 手話通者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う | はい | いいえ |
| その他 () | | |

それぞれの場面での見えにくさについて

- 1 目の前にいる人との会話で相手の口形を見る
- | | | |
|-------------------|----|-----|
| 薄暗くてもおおよそわかる | はい | いいえ |
| 明るいところでもならおおよそわかる | はい | いいえ |
| 明るいところでもよくわからない | はい | いいえ |
| その他 () | | |

- 2 机の上の本や資料を読む
- | | | |
|--------------------|----|-----|
| ふつうの文字でも顔を近づければ読める | はい | いいえ |
| 拡大文字にすれば読める | はい | いいえ |
| 拡大鏡・拡大読書器を使えば読める | はい | いいえ |
| その他 () | | |

- 3 机の上のパソコンの画面を読む
- | | | |
|-------------------------|----|-----|
| 白黒反転など背景色と文字の色を調整すれば読める | はい | いいえ |
| MS ゴシックなど、フォントを変えれば読める | はい | いいえ |
| 文字の大きさを換えれば読める | はい | いいえ |
| その他 () | | |

- 4 2メートルくらい離れた黒板やスクリーンを見る
- | | | |
|-------------------------|----|-----|
| 大きな文字なら読める | はい | いいえ |
| 大きな図なら見える | はい | いいえ |
| 単眼鏡（遠くの文字を拡大する）等を使えば見える | はい | いいえ |
| その他 () | | |

それぞれの場面での聞こえにくさについて

1 補聴器または人工内耳を利用していますか

A 利用していない

ほとんど効果がない

効果が少ないうえにわずらわしい

値段が高い

その他 (

)

に進んでください

B 利用している 下の質問に進んでください

補聴器や人工内耳を利用している方のみお答えください

a 目の前にいる人との会話

だいたいわかる

はい

いいえ

相手の口や話し方がよければだいたいわかる

はい

いいえ

半分くらいわかる

はい

いいえ

相手の口や話し方がよければ半分くらいわかる

はい

いいえ

その他 (

)

b 5人くらいの話し合い

機器や人的な支援がなくてもだいたいわかる

はい

いいえ

ループがあればわかる

はい

いいえ

マイクがあればわかる

はい

いいえ

相手の口や話し方がよければだいたいわかる

はい

いいえ

その場にいる人に復唱してもらえばわかる

はい

いいえ

その他 (

)

c 20人くらいの話し合い

機器や人的な支援がなくてもだいたいわかる

はい

いいえ

ループがあればわかる

はい

いいえ

マイクがあればわかる

はい

いいえ

手話通訳があればわかる

はい

いいえ

要約筆記があればわかる

はい

いいえ

その場にいる人に復唱してもらえばわかる

はい

いいえ

その他 (

)

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

A 利用していない

利用の方法がわからない	はい	いいえ
やってくれる知り合いがいない	はい	いいえ
利用する機会がない	はい	いいえ
気を使うから	はい	いいえ
その他 ()

ここで終わりです。ご協力ありがとうございました。

B 利用している 下の質問に進んでください

手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用している方のみ
お答えください

a 手話通訳を利用する

会議の場面	はい	いいえ
講演や研修等の場面	はい	いいえ
病院や役所などの場面	はい	いいえ
学校での授業の場面	はい	いいえ
その他 ()

b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する

会議の場面	はい	いいえ
講演や研修等の場面	はい	いいえ
病院や役所などの場面	はい	いいえ
学校での授業の場面	はい	いいえ
その他 ()

a または b を利用される方は に進んでください

c 要約筆記を利用する

会議の場面	はい	いいえ
講演や研修等の場面	はい	いいえ
病院や役所などの場面	はい	いいえ
学校での授業の場面	はい	いいえ
その他 ()

- d 要約筆記を利用する場合
- | | | | |
|-------------------------|----|-----|-----|
| 手書きのスクリーンを近くの席で見る | はい | いいえ | |
| 手書きのノートテイクを見る | はい | いいえ | |
| パソコン要約筆記のスクリーンを近くの席で見る | はい | | いいえ |
| 会場向けのパソコン要約筆記につないで手元で見る | はい | | いいえ |
| 自分向けのパソコンに入力してもらい手元で見る | はい | | いいえ |
| その他（ | | | ） |

公的制度の利用について

1 盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業を利用していますか

A 利用していない

- | | | |
|-------------------|----|-----|
| 利用の方法がわからないから | はい | いいえ |
| 手帳がないから | はい | いいえ |
| 申請したが利用条件が合わず断られた | はい | いいえ |
| 家族・友人に助けをもらう | はい | いいえ |
| 利用する機会がない | はい | いいえ |
| 機会があれば利用したい | はい | いいえ |
| その他（ | | ） |

2に進んでください

B 利用している 下の質問に進んでください

- | | | |
|-----------|----|-----|
| よく利用する | はい | いいえ |
| たまに利用する | はい | いいえ |
| 利用したことがある | はい | いいえ |

2 要約筆記者派遣事業を利用していますか

A 利用していない

- | | | |
|-------------------|----|-----|
| 利用の方法がわからないから | はい | いいえ |
| 手帳がないから | はい | いいえ |
| 申請したが利用条件が合わず断られた | はい | いいえ |
| 家族・友人に助けをもらう | はい | いいえ |
| 利用する機会がない | はい | いいえ |
| 機会があれば利用したい | はい | いいえ |
| その他（ | | ） |

ここで終わりです。ご協力ありがとうございました。

B	利用している	下の質問に進んでください		
	よく利用する		はい	いいえ
	たまに利用する		はい	いいえ
	盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業が使えないとき利用する		はい	いいえ
ここで終わりです。ご協力ありがとうございました。				

2. アンケートの依頼先の検討

研究作業委員会での議論の結果、アンケートの送付先については、全国盲ろう者協会を通して、加盟団体に依頼することになった。また、難聴は自覚しているが視覚障害を自覚していない人が難聴者協会に所属している。そういった人も含めて、難聴者協会や情報提供施設協議会を通じて、把握している対象者の範囲で依頼することになった。

最終的には、全国盲ろう者協会、全国聴覚障害者情報提供施設協議会、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会から紹介を受けた団体に配布した。

全国盲ろう者協会から紹介を受けた 49 団体、全聴情協から紹介を受けた 52 団体、全難聴から紹介を受けた 57 団体の合計 158 団体に、封筒とアンケート質問回答用紙のセットを 10 セットずつ送った。対象者については各団体の支部が把握している障害の状況によって選定してもらった。

各団体は、返信用封筒とアンケート質問回答用紙を対象者に配布、返送は回答者が直接郵送するという方式で回答を依頼した。アンケート協力者への依頼文は、見やすさを考慮して、B4判の用紙に 20 ポイントのフォントサイズでプリントしたものを配布した。各団体に送った封筒と回答用紙のセットは、そこから先については留め置きや郵送で対象者に届けられた。返信は直接郵送で送り返してもらう方式である。

C. 研究と考察

2015年11月10日から各団体へのアンケート用紙と返信用封筒のセットの配布を開始した。回収期限としては当初 2015 年 11 月 25 日を設定したが、対象者本人が直接設問を読み回答を書き込み、また返信するといった作業が難しい場合があるため、実施期間に余裕を持たせて最終的には 2016 年 1 月 5 日までに返送されてきた 131 通を分析の対象とした。

返送されてきたアンケート用紙については、ナンバリングしたあと Excel にデータを入力し、その後、読み上げソフトで誤入力のチェックを行った。

1. アンケート質問項目とデータクリーニング

表 2 に、アンケート質問項目と実際の回答に記入されていた例外値の例を示す。たとえば「聴覚障害等級」の回答では、無回答、2 級以上だと認識と回答、(聴覚障害等級は 2 級以下しかないにも関わらず) 1 や 5 と回答、2 と回答し余白部分に「視覚障害と合わせて総合 1 種 1 級」とコメント、3 と回答し余白に「聴覚と視力で 2 級」とコメント、などと様々で、プリテストだけではこの例外値を事前に予測することができなかった。そのため、分析に使うデータとしては、例外値回答の内容をつかみ取って使用することとし、できるだけ除外しない方針を進めた。

表 2 アンケート質問項目と記入されていた例外値

大分類(略記)	設問番号	小分類(略記)	回答指示内容	例外値の例
フェイスシート		都道府県	()	市を記入
		市区町村	()市・区・町・村	広島市の区を記入
		年代	20歳未満、20代、30代、40代、50代、60代、70才以上	無回答
あなたの障害見えにくくなったのは	I1	右目障害年齢	()歳ごろ	無回答 ? 生まれつき 2段階で悪くなった 老眼の度数を記入 忘れた 歳代 徐々に
	I1	左目障害年齢	()歳ごろ	右目と同様
	I1	視野狭窄	あり なし	無回答
	I1	夜盲	あり なし	無回答
	I1	現在の右視力	右()	無回答 ? 不明 分からない 手動弁 以下、 ~ 計測不能 人工レンズ入り 視力 光覚 全盲 0.002
	I1	現在の左視力	左()	右視力と同様
	I1	視覚障害有無	あり なし	無回答 なし / 申請中
	I1	視覚障害等級	()級	無回答 6級以下 覚えていない
あなたの障害聞こえにくくなったのは	I2	右耳障害年齢	()歳ごろ	生まれつき 乳幼児期 生まれてすぐ いつのまにか 推定 歳後半
	I2	左耳障害年齢	()歳ごろ	右耳と同様
	I2	語音明瞭度	良い 悪い	
	I2	語音明瞭度%	()%(わかれば)	%以下
	I2	現在の右聴力	()dB	無回答 左右 100dB以上 耳として機能していない状態。詳しいdBは記述不可 スケールアウト 先天性ろう 人工内耳 80? 100 / 全ろう 100 0 0.8 133
	I2	現在の左聴力	()dB	左聴力と同様
	I2	聴覚障害有無	あり なし	無回答
	I2	聴覚障害等級	()級	無回答 2級以上だと認識 1 5 2と回答しコメントに視覚障害と合わせて総合 1種 1級 3と回答しコメントに聴覚と視力で2級

日常音声入手 手段 1人との 会話	II1	1対1会話補聴器	はい いいえ	無回答 質問前の数字に I V1A以降で逆の答え
	II1	1対1会話筆談	はい いいえ	無回答
	II1	1対1会話手話・ 要約・盲ろう通訳	はい いいえ	無回答 ときどき
	II1	1対1会話その他	()	
日常音声入手 手段 数人との 会話	II2	数人会話補聴器	はい いいえ	無回答 IV1A以降で逆の回 答
	II2	数人会話復唱	はい いいえ	無回答
	II2	数人会話手話・ 要約・盲ろう通訳	はい いいえ	無回答 質問文章中に が付 いている
	II2	数人会話その他	()	
日常音声入手 手段 多人数 集まり	II3	多人数会話補聴 器	はい いいえ	無回答 IV1A以降で逆の回 答
	II3	多人数会話復唱	はい いいえ	無回答 いいえ
	II3	多人数会話手 話・要約・盲ろう 通訳	はい いいえ	無回答 はい
	II3	多人数会話その 他	()	
見えにくさ 目 の前の人との 会話	III1	目の前会話薄暗 くても可	はい いいえ	無回答 かすかに ここははい で次の質問にもはい 質問前 の数字に が付いている
	III1	目の前会話明る いなら可	はい いいえ	無回答 かすみあり ここでは いで次の質問にもはい 質問 前の数字に が付いている
	III1	目の前会話明るく ても不可	はい いいえ	無回答 質問文章中に が付 いている 質問前の数字に が付いている 明るいと不可 明るすぎても暗すぎてもだめ
	III1	目の前会話見え にくさその他	()	目の障害なし
見えにくさ 机 上の本や資料	III2	読書ふつう文字 で可	はい いいえ	無回答 ここではいで次の質問 にもはい
	III2	読書拡大文字で 可	はい いいえ	無回答 質問前の数字に が 付いている はい? はい
	III2	読書拡大鏡で可	はい いいえ	無回答 質問前の数字に が 付いている はい? 使用しな い
	III2	読書見えにくさそ の他	()	
見えにくさ 机 上のパソコン	III3	パソコン画面色変 更で可	はい いいえ	無回答 「はい」と「いいえ」の 間に印がある
	III3	パソコン画面フォ ント種で可	はい いいえ	無回答 はい白黒反転で、白 黒反転は無回答 はい
	III3	パソコン画面文字 大きさで可	はい いいえ	無回答 はい? 質問前の数 字に が付いている

	III3	パソコン画面見えにくさその他	()	
見えにくさ 2m離れた黒板やスクリーン	III4	黒板文字大きさを可	はい いいえ	無回答 はい? はい
	III4	黒板大きな図なら可	はい いいえ	無回答 はい? はい
	III4	黒板単眼鏡で可	はい いいえ	無回答 使わない、使ったことがない
	III4	黒板見えにくさその他	()	目の障害なし
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用有無と使わない理由	IV1A	補聴器利用有無	利用していない(利用している)	無回答 II1 と逆の回答 質問文章中に が付いている 質問前の数字に が付いている
	IV1A	補聴器利用しない理由効果なし	数字に丸	無回答 利用するのに利用しない理由を記入
	IV1A	補聴器利用しない理由わずらわしい	数字に丸	無回答 利用するのに利用しない理由を記入
	IV1A	補聴器利用しない理由値段高い	数字に丸	無回答 利用するのに利用しない理由を記入
	IV1A	補聴器利用しない理由その他	()	
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用目の前の人との会話	IV1Ba	補聴器利用目の前会話だいたい	はい いいえ	無回答 質問文章中に が付いている 質問前の数字に が付いている
	IV1Ba	補聴器利用目の前会話よければだいたい	はい いいえ	無回答
	IV1Ba	補聴器利用目の前会話半分	はい いいえ	無回答 質問前の数字に が付いている
	IV1Ba	補聴器利用目の前会話よければ半分	はい いいえ	無回答 「設問がおかしい」私たちにとっては聞こえた分が100%。聞こえなかった範囲は不明。
	IV1Ba	補聴器利用目の前会話その他	()	
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用5人ぐらいの話し合い	IV1Bb	補聴器利用5人会話だいたい	はい いいえ	無回答
	IV1Bb	補聴器利用5人会話ループ	はい いいえ	無回答 使ったことがないのでわからない はい/ (ループがあればわかる)時もある。
	IV1Bb	補聴器利用5人会話マイク	はい いいえ	無回答 (マイクがあればわかる)時もある。「はい」と「いいえ」の間に印がある ?
	IV1Bb	補聴器利用5人会話よければだ	はい いいえ	無回答 いいえ/ ?

		いたい		
	IV1B b	補聴器利用 5 人 会話復唱	はい いいえ	無回答
	IV1B b	補聴器利用 5 人 会話その他	()	
聞こえにくさと 補聴器・人工 内耳の利用 20 人ぐらいの 話し合い	IV1B c	補聴器利用 20 人 会話だいたい	はい いいえ	無回答
	IV1B c	補聴器利用 20 人 会話ループ	はい いいえ	無回答 使ったことがないので わからない はい/いいえ は い/ ?
	IV1B c	補聴器利用 20 人 会話マイク	はい いいえ	無回答 ? 「はい」と「いいえ」 の間に印がある
	IV1B c	補聴器利用 20 人 会話手話通訳	はい いいえ	無回答 いいえ / 手話できま せん いいえ /
	IV1B c	補聴器利用 20 人 会話要約筆記	はい いいえ	無回答 使ったことがないので わかりません 「はい」と「いい え」の間に印がある 質問前の 数字に が付いている
	IV1B c	補聴器利用 20 人 会話復唱	はい いいえ	無回答 質問文章中に が付 いている いいえ /
	IV1B c	補聴器利用 20 人 会話その他	()	
通訳利用 有 無と使わない 理由	V1A	通訳利用有無	利用していな い (利用し ている)	無回答 質問前の数字に が 付いている
	V1A	通訳利用しない 理由方法不明	はい いいえ	無回答
	V1A	通訳利用しない 理由知り合いなし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答
	V1A	通訳利用しない 理由機会なし	はい いいえ	無回答
	V1A	通訳利用しない 理由気を使う	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答
	V1A	通訳利用しない 理由その他	()	
通訳利用 手 話通訳利用有 無と場面	V1Ba	手話通訳利用有 無	【下記に回答 していれば 利用ありとみ なす】	
	V1Ba	手話通訳利用会 議	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答 はい / 質問前の数字 に が付いている
	V1Ba	手話通訳利用講 演	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答 はい / 質問前の数字 に が付いている
	V1Ba	手話通訳利用病 院	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答 いいえ /

	V1Ba	手話通訳利用授業	はい いいえ	無回答 行かない いいえ/なし
	V1Ba	手話通訳利用その他	()	
通訳利用 盲ろう者向け通訳・介助員利用有無と場面	V1Bb	盲ろう通訳利用有無	【下記に回答していれば利用ありとみなす】	質問文章中に が付いている
	V1Bb	盲ろう通訳利用会議	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答
	V1Bb	盲ろう通訳利用講演	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答
	V1Bb	盲ろう通訳利用病院	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答
	V1Bb	盲ろう通訳利用授業	はい いいえ	無回答 行かない いいえ/なし
	V1Bb	盲ろう通訳利用その他	()	
	通訳利用 要約筆記利用有無と場面	V1Bc	要約筆記利用有無	【下記に回答していれば利用ありとみなす】
V1Bc		要約筆記利用会議	はい いいえ	無回答 質問前の数字に が付いている はい/ 利用無しではいと回答
V1Bc		要約筆記利用講演	はい いいえ	無回答 質問前の数字に が付いている はい/ 利用無しではいと回答
V1Bc		要約筆記利用病院	はい いいえ	無回答 質問前の数字に が付いている 利用無しではいと回答
V1Bc		要約筆記利用授業	はい いいえ	無回答 質問前の数字に が付いている いいえ/なし 利用無しではいと回答
V1Bc		要約筆記利用その他	()	質問前の数字に が付いている はい
通訳利用 要約筆記利用要約筆記種類	V1Bd	要約筆記利用手書きスクリーン	はい いいえ	無回答 質問前の数字に が付いている いいえ/ ? 利用無しではいと回答
	V1Bd	要約筆記利用手書きテイク	はい いいえ	無回答 ? 利用無しではいと回答
	V1Bd	要約筆記利用パソコンスクリーン	はい いいえ	無回答 はい/ ? 利用無しではいと回答
	V1Bd	要約筆記利用パソコン手元	はい いいえ	無回答 いいえ/ はい /?? ? 見たい 利用無しではいと回答

	V1Bd	要約筆記利用パソコンテイク	はい いいえ	無回答 ? いいえ / / 主催側が用意してくれるところもある。文字は70~80ポイントの大きさで読むのに時間がかかり過ぎて周りの方についていけない。
	V1Bd	要約筆記利用その他	()	
公的盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業利用有無と使わない理由	VI1A	公的盲ろう通訳利用有無	利用していない(利用している)	無回答 質問前の数字に が付いている なし/年に1~2回は行事で利用していますが、ほとんどしていないようなものです。
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しない理由方法不明	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しない理由手帳なし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しない理由条件外	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しない理由家族支援	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答 質問前の数字に が付いている
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しない理由機会なし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しないが利用希望	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答 質問前の数字に が付いている
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しない理由その他	()	
公的盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業利用頻度	VI1B	公的盲ろう通訳利用よく利用	はい いいえ	無回答 はい/いいえ 利用無しではいと回答
	VI1B	公的盲ろう通訳利用たまに利用	はい いいえ	無回答 質問前の数字に が付いている 利用無しではいと回答
	VI1B	公的盲ろう通訳利用利用したことあり	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答
公的要約筆記派遣事業利用有無と使わない理由	VI2A	公的要約筆記利用有無	利用していない(利用している)	
	VI2A	公的要約筆記利用しない理由方法不明	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答

	VI2 A	公的要約筆記利用しない理由手帳なし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI2 A	公的要約筆記利用しない理由条件外	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI2 A	公的要約筆記利用しない理由家族支援	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI2 A	公的要約筆記利用しない理由機会なし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI2 A	公的要約筆記利用しないが利用希望	はい いいえ	無回答 利用ありではいと回答
	VI2 A	公的要約筆記利用しない理由その他	()	
公的要約筆記派遣事業利用頻度	VI2 B	公的要約筆記利用よく利用	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答 よく利用とたまに利用を回答
	VI2 B	公的要約筆記利用たまに利用	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答 よく利用とたまに利用を回答
	VI2 B	公的要約筆記利用盲ろう通訳が使えないとき	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答

2. 単純集計

アンケートの単純集計結果を表 3 に示す。
聴覚障害はあるが視覚障害のない人が 18 人回

答していたため、その回答は除外して集計・分析することとした。

表 3 アンケート単純集計結果

大分類 (略記)	設問番号	小分類 (略記)	集計した回答	人数	構成比
あなたの障害見えにくくなったのは	I1	視覚障害有無	あり	113	86.3%
あなたの障害聞こえにくくなったのは	I2	聴覚障害有無	あり	131	100%
これ以降は n = 113 で集計					

日常音声入手手段 1人との会話	II1	1対1会話補聴器	はい	51	45.1%
	II1	1対1会話筆談	はい	81	71.7%
	II1	1対1会話手話・要約・盲ろう通訳	はい	85	75.2%
	II1	1対1会話その他			
日常音声入手手段 数人との会話	II2	数人会話補聴器	はい	43	38.1%
	II2	数人会話復唱	はい	36	31.9%
	II2	数人会話手話・要約・盲ろう通訳	はい	92	81.4%
	II2	数人会話その他			
日常音声入手手段 多人数集まり	II3	多人数会話補聴器	はい	38	33.6%
	II3	多人数会話復唱	はい	32	28.3%
	II3	多人数会話手話・要約・盲ろう通訳	はい	100	88.5%
	II3	多人数会話その他			
見えにくさ 目の前の人との会話	III1	目の前会話薄暗くても可	はい	8	7.1%
	III1	目の前会話明るいなら可	はい	52	46.0%
	III1	目の前会話明るくても不可	はい	49	43.4%
	III1	目の前会話見えにくさその他			
見えにくさ 机上の本や資料	III2	読書ふつう文字で可	はい	29	25.7%
	III2	読書拡大文字で可	はい	58	51.3%
	III2	読書拡大鏡で可	はい	90	79.6%
	III2	読書見えにくさその他			
見えにくさ 机上のパソコン	III3	パソコン画面色変更で可	はい	70	61.9%
	III3	パソコン画面フォント種で可	はい	57	50.4%
	III3	パソコン画面文字大きさを可	はい	81	71.7%
	III3	パソコン画面見えにくさその他			
見えにくさ 2m離れた黒板やスクリーン	III4	黒板文字大きさを可	はい	45	39.8%
	III4	黒板大きな図なら可	はい	45	39.8%
	III4	黒板単眼鏡で可	はい	29	25.7%
	III4	黒板見えにくさその他			
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用有無と使わない理由	IV1A	補聴器利用有無	利用していない (利用有)	48 (65)	42.5% (57.5%)
	IV1A	補聴器利用しない理由効果なし	効果なし	27	23.9%
	IV1A	補聴器利用しない理由わずらわしい	わずらわしい	4	3.5%
	IV1A	補聴器利用しない理由値段が高い	値段が高い	0	0%

	IV1A	補聴器利用しない理由その他			
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用目の前の人との会話	IV1Ba	補聴器利用目の前会話だいたい	はい	37	32.7%
	IV1Ba	補聴器利用目の前会話よければだいたい	はい	28	24.8%
	IV1Ba	補聴器利用目の前会話半分	はい	21	18.6%
	IV1Ba	補聴器利用目の前会話よければ半分	はい	26	23.0%
	IV1Ba	補聴器利用目の前会話その他			
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用5人ぐらいの話し合い	IV1Bb	補聴器利用5人会話だいたい	はい	4	3.5%
	IV1Bb	補聴器利用5人会話ループ	はい	16	14.2%
	IV1Bb	補聴器利用5人会話マイク	はい	17	15.0%
	IV1Bb	補聴器利用5人会話よければだいたい	はい	16	14.2%
	IV1Bb	補聴器利用5人会話復唱	はい	37	32.7%
	IV1Bb	補聴器利用5人会話その他			
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用20人ぐらいの話し合い	IV1Bc	補聴器利用20人会話だいたい	はい	2	1.8%
	IV1Bc	補聴器利用20人会話ループ	はい	13	11.5%
	IV1Bc	補聴器利用20人会話マイク	はい	16	14.2%
	IV1Bc	補聴器利用20人会話手話通訳	はい	20	17.7%
	IV1Bc	補聴器利用20人会話要約筆記	はい	26	23.0%
	IV1Bc	補聴器利用20人会話復唱	はい	32	28.3%
	IV1Bc	補聴器利用20人会話その他			
通訳利用有無と使わない理由	V1A	通訳利用有無	利用していない (利用有)	13 (100)	11.5% (88.5%)
	V1A	通訳利用しない理由方法不明	はい	2	1.8%
	V1A	通訳利用しない理由知合いなし	はい	2	1.8%
	V1A	通訳利用しない理由機会なし	はい	6	5.3%

	V1A	通訳利用しない理由気を 使う	はい	2	1.8%
	V1A	通訳利用しない理由その 他			
通訳利 用 手話 通訳利 用有無と 場面	V1Ba	手話通訳利用有無	利用している	50	44.2%
	V1Ba	手話通訳利用会議	はい	40	35.4%
	V1Ba	手話通訳利用講演	はい	41	36.3%
	V1Ba	手話通訳利用病院	はい	40	35.4%
	V1Ba	手話通訳利用授業	はい	15	13.3%
	V1Ba	手話通訳利用その他			
通訳利 用 盲ろ う者向け 通訳・介 助員利 用有無と 場面	V1Bb	盲ろう通訳利用有無	利用している	86	76.1%
	V1Bb	盲ろう通訳利用会議	はい	72	63.7%
	V1Bb	盲ろう通訳利用講演	はい	77	68.1%
	V1Bb	盲ろう通訳利用病院	はい	69	61.1%
	V1Bb	盲ろう通訳利用授業	はい	17	15.0%
	V1Bb	盲ろう通訳利用その他			
通訳利 用 要約 筆記利 用有無と 場面	V1Bc	要約筆記利用有無	利用している	41	36.3%
	V1Bc	要約筆記利用会議	はい	28	24.8%
	V1Bc	要約筆記利用講演	はい	32	28.3%
	V1Bc	要約筆記利用病院	はい	21	18.6%
	V1Bc	要約筆記利用授業	はい	8	7.1%
	V1Bc	要約筆記利用その他			
通訳利 用 要約 筆記利 用 要約 筆記種 類	V1Bd	要約筆記利用手書きスク リーン	はい	17	15.0%
	V1Bd	要約筆記利用手書きテイ ク	はい	25	22.1%
	V1Bd	要約筆記利用パソコンス クリーン	はい	23	20.4%
	V1Bd	要約筆記利用パソコン手 元	はい	18	15.9%
	V1Bd	要約筆記利用パソコンテ イク	はい	18	15.9%
	V1Bd	要約筆記利用その他			
公的盲 ろう者向 け通訳・ 介助員 派遣事 業利用 有無と使 わない 理由	VI1A	公的盲ろう通訳利用有無	利用していな い (利用有)	24 (89)	21.2% (78.8%)
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しな い理由方法不明	はい	1	0.9%
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しな い理由手帳なし	はい	1	0.9%
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しな い理由条件外	はい	3	2.7%
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しな い理由家族支援	はい	13	11.5%

	VI1A	公的盲ろう通訳利用しない理由機会なし	はい	6	5.3%
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しないが利用希望	はい	11	9.7%
	VI1A	公的盲ろう通訳利用しない理由その他			
公的盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業利用頻度	VI1B	公的盲ろう通訳利用よく利用	はい	64	56.6%
	VI1B	公的盲ろう通訳利用ために利用	はい	20	17.7%
	VI1B	公的盲ろう通訳利用利用したことあり	はい	5	4.4%
公的要約筆記派遣事業利用有無と使わない理由	VI2A	公的要約筆記利用有無	利用していない (利用有)	81 (32)	71.7% (28.3%)
	VI2A	公的要約筆記利用しない理由方法不明	はい	4	3.5%
	VI2A	公的要約筆記利用しない理由手帳なし	はい	1	0.9%
	VI2A	公的要約筆記利用しない理由条件外	はい	3	2.7%
	VI2A	公的要約筆記利用しない理由家族支援	はい	11	9.7%
	VI2A	公的要約筆記利用しない理由機会なし	はい	7	6.2%
	VI2A	公的要約筆記利用しないが利用希望	はい	14	12.4%
	VI2A	公的要約筆記利用しない理由その他			
公的要約筆記派遣事業利用頻度	VI2B	公的要約筆記利用よく利用	はい	16	14.2%
	VI2B	公的要約筆記利用ために利用	はい	14	12.4%
	VI2B	公的要約筆記利用盲ろう通訳が使えないとき	はい	10	8.8%

3. クロス集計による分析

視覚障害ありの 113 人の回答に対して各質問

項目をクロス集計した結果を以下に示す。

表 4 に回答者の居住県を示す。39 都道府県から回答が得られた。

表 4 回答者の居住県

都道府県	人数	構成比
愛知	9	8.0%
愛媛	1	0.9%
茨城	3	2.7%
沖縄	7	6.2%
岩手	1	0.9%
岐阜	1	0.9%
宮崎	1	0.9%
宮城	2	1.8%
京都	3	2.7%
熊本	2	1.8%
群馬	4	3.5%
広島	1	0.9%
香川	3	2.7%
埼玉	4	3.5%
三重	3	2.7%
山形	1	0.9%
山口	6	5.3%
滋賀	2	1.8%
鹿児島	2	1.8%
秋田	2	1.8%
新潟	3	2.7%
神奈川	4	3.5%
静岡	4	3.5%
石川	1	0.9%
千葉	9	8.0%
大阪	4	3.5%
大分	2	1.8%
長崎	1	0.9%
長野	1	0.9%
鳥取	3	2.7%
東京	3	2.7%

徳島	2	1.8%
栃木	1	0.9%
富山	1	0.9%
福井	1	0.9%
福岡	4	3.5%
福島	2	1.8%
兵庫	6	5.3%
北海道	2	1.8%
無回答	1	0.9%
総計	113	100.0%

表 5 に回答者の年齢構成を示す。50～70代を中心に回答が得られた。

表 5 回答者の年齢構成

年代	人数	構成比
20歳未満		0%
20代	4	3.5%
30代	11	9.7%
40代	18	15.9%
50代	24	21.2%
60代	31	27.4%
70歳以上	23	20.4%
無回答	2	1.8%
総計	113	100.0%

表 6 に回答者の視覚障害等級と聴覚障害等級の状況を示す。アンケート質問項目とデータクリーニングの項で述べたように、聴覚障害の質問項目で1級や5級と回答したアンケートはそのまま採用している。身体障害者福祉法によれば、聴覚障害等級としては、2級3級4級6級はあるが、1級と5級は規定されていない。今回の聴覚障害の質問項目で1級や5級と回答した人が15人(1割以上)あった理由として、「自治体が聴覚障害に伴う言語障害もしくは平衡機能障害に該当するものについて、その等級

の指数を合算したものを聴覚障害の等級として扱っていると考えられる」(調査報告 盲ろう者(視覚聴覚二重障害者)における身体障害者手帳の交付状況の実態 自治体を対象とした全国調査から 前田晃秀 社会福祉学第56巻第4号 P102 2016年2月)といった点があげられるであろう。

表 6 回答者の視覚障害等級と聴覚障害等級

視覚障害等級	聴覚障害等級								総計	構成比
	1	2	3	4	5	6	分からない	無回答		
1	9	6	1	4		5			25	24.3%
2	5	25	2	4	2	8	1	2	49	41.5%
3	1	5	1	2					9	6.7%
4		2	1						3	2.5%
5		4							4	2.0%
6		3							3	3.9%
無回答		12	1	1				6	20	19.0%
総計	15	57	6	11	2	13	1	8	113	100%
構成比	14.8%	44.8%	5.5%	9.9%	1.6%	11.1%	1.6%	10.8%	100%	

以下に、主な質問項目とその回答を示す。「要約筆記による盲ろう者支援の在り方に関する研究」アンケートの質問用紙を参照しながら確認

していただきたい。また、ここに集計していないものについては、表 3 アンケート単純集計結果を参照していただきたい。

表 7

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

1 1人の人との会話

補聴器や人工内耳、FM補聴機器等を使い発言者の声を聞く

視覚障害等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	
1	3	3	1	4		5			16
2		4	2	3	2	8		1	20
3		1	1	2					4
4		1							1
5		1							1
6		1							1
無回答		6						2	8
総計	3	17	4	9	2	13		3	51

表 8

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

1 1人の人との会話

相手に筆談、手話をしてもらう

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	7	6		1					14
2	5	23	1	4		1	1		35
3	1	5	1	1					8
4		2	1						3
5		3							3
6		3							3
無回答		9	1	1				4	15
総計	13	51	4	7		1	1	4	81

表 9

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

1 1人の人との会話

手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	5	6	1	1		2			15
2	4	23	1	3	1	8	1		41
3	1	4		2					7
4		2	1						3
5		2							2
6		2							2
無回答		8	1	1				5	15
総計	10	47	4	7	1	10	1	5	85

上記の3つの表から、盲ろう者が1人の人との1対1の会話では、相手に筆談や手話をしてもらったり、手話通訳者や要約筆記者、盲ろう

者向け通訳・介助員に支援してもらったりといったことが多いことがわかる。

表 10

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

2 数人の人との会話

補聴器や人工内耳、FM 補聴機器等を使い発言者の声を聞く

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	3	2	1	4		5			15
2		2	2	2	2	7	1		16
3		1	1	2					4
4									
5		1							1
6		1							1
無回答	3	4					2		6
総計		11	4	8	2	12	3		43

表 11

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

2 数人の人との会話

その場にいる人に耳元で復唱してもらう

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	3	1	1	3		4			12
2		3	2	3	1	6		1	16
3		1	1						2
4									
5		1							1
6		1							1
無回答		2						2	4
総計	3	9	4	6	1	10		3	36

表 12

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

2 数人の人との会話

手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	9	6	1	2		2			20
2	4	23	1	3	1	7	1		40
3	1	4		2					7
4		2	1						3
5		3							3
6		2							2
無回答		10	1	1				5	17
総計	14	50	4	8	1	9	1	5	92

上記の3つの表から、盲ろう者が数人の人との会話では、手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員に支援してもらうことが多いのわかる。

表 13

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

3 多数の人の参加する集まり

補聴器や人工内耳、FM補聴機器等を使い発言者の声を聞く

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	3	1	1	4		5			14
2		2	1	2	2	6		1	14
3		1	1	1					3
4		1							1
5									
6		1							1
無回答		3						2	5
総計	3	9	3	7	2	11		3	38

表 14

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

3 多数の人の参加する集まり

その場にいる人に耳元で復唱してもらう

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	3	1	1	3		4			12
2		4	1	2	1	6		1	15
3		1							1
4									
5									
6		1							1
無回答		1						2	3
総計	3	8	2	5	1	10		3	32

表 15

日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

3 多数の人の参加する集まり

手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	9	5	1	2		3			20
2	4	24	2	4	1	7	1		43
3	1	5	1	2					9
4		2	1						3
5		4							4
6		3							3
無回答		11	1	1				5	18
総計	14	54	6	9	1	10	1	5	100

上記の3つの表から、盲ろう者が多数の人の参加する集まりでは、手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を利用することが多いのわかる。

表 16

それぞれの場面での見えにくさについて

1 目の前にいる人との会話で相手の口形を見る

視覚障害等級	薄暗くても おおよそわ かる	明るいところ でならお およそわか る	明るいところ でもよく わからない	総計
1		7	12	19
2	4	26	18	48
3	1	5	3	9
4		1	3	4
5		3	1	4
6		1	3	4
無回答	3	9	9	21
総計	8	52	49	109

それぞれの場面での見えにくさについては、明るいところならおおよそわかるのが全体の半数近かったが、逆に明るいところでもよくわからない人も半数近くいることが分かった。また本稿には詳細データは記載しなかったが、回答のコメントには、少数ではあるが「明るすぎるとよくわからない」というものもあった。

表 17

それぞれの場面での見えにくさについて

2 机の上の本や資料を読む

3 机の上のパソコンの画面を読む

4 2メートルくらい離れた黒板やスクリーンを見る

視覚障害等級	ふつうの文字でも顔を近づければ読める	拡大文字にすれば読める	拡大鏡・拡大読書器を使えば読める	白黒反転など背景色と文字の色を調整すれば読める	MSゴシックなど、フォントを変えれば読める	文字の大きさを変えれば読める	大きな文字なら読める	大きな図なら見える	単眼鏡（遠くの文字を拡大する）等を使えば見える
1	3	14	18	14	11	18	6	7	5

2	12	26	42	31	28	32	17	17	9
3	2	4	9	8	6	8	5	5	4
4	1	2	3	3	1	3	1	2	1
5	3	0	3	2	1	4	3	3	2
6	1	1	3	2	2	2	1	1	1
無回答	7	11	12	11	8	14	12	10	7
総計	29	58	90	71	57	81	45	45	29
構成比	25.7%	51.3%	79.6%	62.8%	50.4%	71.7%	39.8%	39.8%	25.7%

(複数回答のため構成比の分母はそれぞれ n=113 で試算した)

文字の見え方についての設問では、半数以上が文字の大きさやフォント、色などを工夫すれば読めると回答している。

表 18

通訳の利用について

- 1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか
 B 利用している
 a 手話通訳を利用する

視覚障害等級	手話通訳を利用する	聴覚障害等級								
		1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	総計
1	あり	5	3							8
	なし	4	3	1	4		5			17
2	あり	4	15	1	3					23
	なし	1	10	1	1	2	8	1	2	26
3	あり	1	4	1	1					7
	なし		1		1					2
4	あり		2							2
	なし			1						1
5	あり		2							2
	なし		2							2
6	あり									
	なし		3							3

無回答	あり		5		1				2	8
	なし		7	1					4	12
総計		15	57	6	11	2	13	1	8	113

50人が手話通訳を利用しており、利用したことがないのは63人であった。

表 19

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

a 手話通訳を利用する

会議の場面

講演や研修等の場面

病院や役所などの場面

学校での授業の場面

視覚障害等級	手話通訳利用 会議	手話通訳利用 講演	手話通訳利用 病院	手話通訳利用 授業	総計
1	7	7	8	2	24
2	17	18	18	7	60
3	5	6	4	2	17
4	2	1	2		5
5	2	2	2	2	8
6					
無回答	7	7	6	2	22
総計	40	41	40	15	

手話通訳の利用の場面としては、会議、講演、病院での利用がほぼ同数で、それぞれ40人ほど36%程度の方が利用していると回答した。

表 20

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する

視覚障害等級	盲ろう通訳利用有無	聴覚障害等級								
		1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	総計
1	あり	8	6	1	3		3			21
	なし	1			1		2			4
2	あり	3	24	2	3	1	7			40
	なし	2	1		1	1	1	1	2	9
3	あり	1	5	1	2					9
	なし									
4	あり		1	1						2
	なし		1							1
5	あり		2							2
	なし		2							2
6	あり		3							3
	なし									
無回答	あり		3	1					5	9
	なし		9		1				1	11
総計		15	57	6	11	2	13	1	8	113

盲ろう者向け通訳・介助員を 86 人（76.1%）が利用しており、利用したことがないのは 27 人であった。

表 21

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する

会議の場面

視覚障害等級	聴覚障害等級								
	1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	総計
1	7	5	1	2		3			18
2	3	20	1	3		7			34
3	1	3		1					5
4		1	1						2

5		2							2
6		3							3
無回答		2	1					5	8
総計	11	36	4	6		10		5	72

盲ろう者向け通訳・介助員を会議で利用しているのは72人で全体の63.7%であった。

表 22

通訳の利用について

- 1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか
 B 利用している
 b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する
 講演や研修等の場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	8	5	1	2		3			19
2	3	21	2	3	1	7			37
3	1	4	1	1					7
4		1	1						2
5		2							2
6		2							2
無回答		2	1					5	8
総計	12	37	6	6	1	10		5	77

盲ろう者向け通訳・介助員を講演や研修等で利用しているのは77人で全体の68.1%であった。

表 23

通訳の利用について

- 1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか
 B 利用している
 b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する
 病院や役所などの場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	5	5	1	3		3			17
2	2	19	1	3	1	6			32
3	1	3		2					6
4		1	1						2
5		1							1
6		2							2
無回答		3	1					5	9
総計	8	34	4	8	1	9		5	69

盲ろう者向け通訳・介助員を病院や役所などに出かけるときに利用しているのは 69 人で全体の 61.1%であった。

表 24

通訳の利用について

- 1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか
 B 利用している
 b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する
 学校での授業の場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1	2							3
2		6		2					8
3	1	1							2
4			1						1
5		1							1
6		1							1
無回答								1	1
総計	2	11	1	2				1	17

盲ろう者向け通訳・介助員を学校での授業で利用しているのは 17 人で全体の 15% であった。

表 25

通訳の利用について

- 1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか
 B 利用している
 c 要約筆記を利用する

視覚障害等級	要約筆記利用有無	聴覚障害等級								総計
		1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	
1	あり	3	3	1			1			8
	なし	6	3		4		4			17
2	あり	2	10		3		1	1		17
	なし	3	15	2	1	2	7		2	32
3	あり		2	1	1					4
	なし	1	3		1					5
4	あり			1						1
	なし		2							2
5	あり									
	なし		4							4
6	あり		1							1
	なし		2							2
無回答	あり		6	1	1				2	10
	なし		6						4	10
総計		15	57	6	11	2	13	1	8	113

要約筆記を利用しているのは 41 人で、全体の 36.3%であった。

表 26

通訳の利用について

- 1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか
 B 利用している
 c 要約筆記を利用する
 会議の場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1	1	1						3
2	1	7		3		1	1		13
3			1	1					2
4									
5									
6		1							1
無回答		5	1	1				2	9
総計	2	14	3	5		1	1	2	28

要約筆記を会議の場面で利用しているのは 28 人で全体の 24.8%であった。

表 27

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

c 要約筆記を利用する

講演や研修等の場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1	2	1						4
2	1	8		3		1	1		14
3		1	1	1					3
4									
5									
6		1							1
無回答		6	1	1				2	10
総計	2	18	3	5		1	1	2	32

要約筆記を講演や研修等の場面で利用しているのは 32 人で全体の 28.3%であった。

表 28

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

c 要約筆記を利用する

病院や役所などの場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	総計
1	1	2	1						4
2	2	6		2			1		11
3			1						1
4									
5									
6									
無回答		2	1	1				1	5
総計	3	10	3	3			1	1	21

要約筆記を病院や役所などに出かけるときに利用しているのは21人で全体の18.6%であった。

表 29

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

c 要約筆記を利用する

学校での授業の場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	総計
1		2							2
2		1		1			1		3
3									
4									
5									

6									
無回答		1						2	3
総計		4		1			1	2	8

要約筆記を学校での授業で利用しているのは8人で全体の7.1%であった。

表 30

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

d 要約筆記を利用する場合

手書きのスクリーンを近くの席で見る

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1	2				1			4
2	1	2		3					6
3		1							1
4									
5									
6		1							1
無回答		3	1	1					5
総計	2	9	1	4		1			17

表 31

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

d 要約筆記を利用する場合

手書きのノートテイクを見る

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1	2	1						4
2	2	5		3		1			11

3									
4			1						1
5									
6		1							1
無回答		6	1	1					8
総計	3	14	3	4		1			25

表 32

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

d 要約筆記を利用する場合

パソコン要約筆記のスクリーンを近くの席で見る

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1		2				1			3
2	2	6		2		1			11
3		1	1						2
4									
5									
6		1							1
無回答		4	1	1					6
総計	2	14	2	3		2			23

表 33

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

d 要約筆記を利用する場合

会場向けのパソコン要約筆記につないで手元で見る

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1	3				1			5

2	1	2		1			1		5
3		2							2
4									
5									
6		1							1
無回答		3	1					1	5
総計	2	11	1	1		1	1	1	18

表 34

通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

d 要約筆記を利用する場合

自分向けのパソコンに入力してもらい手元で見る

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	2	3	1			1			7
2	2	3		1					6
3				1					1
4									
5									
6									
無回答		3	1						4
総計	4	9	2	2		1			18

要約筆記を利用する場合、手書きのノートテイクを見ているのが25人、パソコン要約筆記のスクリーンを近くの席で見ているのが23人、会場向けのパソコン要約筆記につないで手元で見るのが18人、自分向けのパソコンに入力してもらい手元で見るのが18人、手書きのスクリーンを近くの席で見ているのが17人であった。それぞれの割合から、20%程度の人が最適でない状態で要約筆記を利用している状況がうかがえる。

表 35

公的制度の利用について

1 盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業を利用していますか

A 利用していない

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1			1		1			3
2	1	1		1	1	2		1	7
3									
4									
5		2							2
6									
無回答		9		1				2	12
総計	2	12		3	1	3		3	24

公的制度で盲ろう者向け通訳・介助員を利用しているのは 89 人 (113 人 - 24 人) であった。

表 36

公的制度の利用について

2 要約筆記者派遣事業を利用していますか

A 利用していない

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	7	4	1	3		5			20
2	4	17	2	1	2	7	1	2	36
3	1	5		2					8
4		1	1						2
5		3							3
6		2							2
無回答		5	1					4	10
総計	12	37	5	6	2	12	1	6	81

公的制度で要約筆記者を利用しているのは 32 人 (113 人 - 81 人) である。28.3% (盲ろう者の 3 分の 1) が要約筆記を利用していることになる。

4. 聞き取り調査（面接調査）質問項目 作成と計画立案

回収したアンケートをもとに、以下のような計画で検討した。聞き取りについては、半構造化面接法に従うこととした。

対象者

弱視ろう、弱視難聴の方で、コミュニケーション手段として必要に応じ要約筆記を利用している方

調査員

作業委員会委員及び事務局各回2名程度、必要に応じ情報保障者及び介助員

調査期間

27年11月30日（月）～28年1月15日（金）

調査記録

録音及びメモ（入力可）

調査内容

盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業における要約筆記（文字による通訳作業）または要約筆記者派遣事業の利用について

- アンケート回答者でも、話の展開でアンケート内容に重複する質問もある。
- アンケートへ回答のない方はアンケート内容についても質問する。

質問内容

調査協力者の障がい状況
要約筆記利用をする内容、場面、

回数

公的派遣事業を使うに際しての利用のしやすさ、しにくさ（要綱上の制約の有無、申し込み方法など）どのようにすれば事業を使いやすくなるか改善策

聞き取り状況：（通訳、機器使用状況：

例：通訳なし。マイクを使用して質問）

（以下記録内容はQ A形式での記載を基本とする。特に気づいたことは文章で適宜記載）

聞き取り具体例

障がい状況について（郵送アンケート内容とほぼ同じ、利用している装具等についても合わせて具体的に）

○聴力の状況（失聴時期、聞こえの程度など）

○視力の状況（同上）

○装具利用の効果など

アンケートに追加して具体的に聞き取る（方法、回数、内容など）

○要約筆記を使うことはあるか。（PCか手書きか、その方法など）

○外出時の介助について。（介助が不要ならその理由、介助の方法など）

○盲ろうの通訳介助員は視覚情報を音声で伝えている。視覚情報の説明の要・不要（要約筆記のみの利用経験者について）

○派遣制度利用は使う場面について。

○派遣事業の実施主体や依頼窓口、派遣までの流れなど。

○盲ろう者向けの通訳介助員制度の存在

は知っているか。利用可能か（利用対象者と制度でなっているか）、利用経験の有無、利用あればどのように利用しているか。

○派遣事業以外に個人的なつながりで依頼するは？

○派遣申請の方法が面倒とか約束ごとで使いにくい点など。

○一般の難聴者が使いやすくする改善点。

○要約筆記を知ったあと、依頼してみようと思わない理由。（調査協力者以外の場合も含めて）

○派遣は回数や時間の制限は？

○他の障害者も集まる会議に参加した時の問題

○要約筆記や難聴者の福祉に関して。

○同じ障害のあるもの同士の場について
...自分にとっての意味と社会的な役割

面接調査協力者への依頼文は見やすさ

を考慮して、B4判の用紙に20ポイントのフォントサイズでプリントしたものを配布した。

5. 聞き取り調査

アンケート調査において、「聞き取りに応じる」と回答した人が26人、その中で遠方に居住しているため調査担当者の日程の調整が付かなかった人が8人、また連絡したが返事がなかった人、連絡が取れるまでに時間がかかった人、盲ろう者ではない人が合わせて8人おり、最終的にはその16人以外の10人に対して聞き取り調査を実施した。

6. 聞き取り調査結果

10人の聞き取り結果は次の通り。

表 37 聞き取り調査結果

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん	Iさん	Jさん
職業生活環境	元教員、現在は地域難聴協会の活動のみ。視覚は子供時代から。うすぼんやりだが慣れがある。聴力低下では一時仕事以外には引きこもり状態だった。	退職までは工場勤務。騒音があり補聴器を外していた。45歳ごろ難聴協会に入会。現在は市の相談員や第3種郵便の事務局をしている。	30代男性。	特別支援学校教員	60代。	自宅では拡大読書器を使用。12pの文字ならなんとか。拡大資料(20P)も機器を使用すれば読める。今一番困るのがインシュリン注射の針が見えないこと。勘で打っている	ろう学校、高等部卒業。その後就職。一人ぐらし。手話は友人同士で話す中で覚えた。聴覚障害2級。視覚障害2級で合計1級。庭園後に盲ろう協会入会。以前はろう協。	70代女性。点字は無理。指点字、触手話は年6回勉強の場があるが他市なので参加が困難。夫が在宅で酸素吸入。老老介護になり活動ができずにいる。	耳元で3分節～4分節程度で区切って復唱。慣れてくると1文程度。自分が何を話したか記録したいと小さなカセットレコーダーを持参、面接調査を録音。	
視覚障害	6歳のころ視力0.4。その後低下で0.1。注2のときに網膜萎縮。右は視力ゼロ。周辺は見えるので左で見る	老眼で見えにくい程度。日常生活では老眼鏡をかければ特に問題はない	中・高校のころ少しずつ悪化。大学入学後、はっきり聞こえないことが分かった。聴力は70dB以下。語音明瞭度が良くない。手帳は聴覚4級。補聴器使用。	生まれつき悪い・弱視1級・左右の視野が狭い。パソコンは至近距離から見る。パソコンの読み上げはPCトーカーとズームテキストを使用	右は0.04くらい。左は全く見えない。視野狭窄や夜盲は両方ともある。両眼とも40歳過ぎてから失明し、視覚障害2級。	形がひずんでみえる。3級。視野狭窄と夜盲はある。左右とも45度程度。小さく歪む。カーテンに映画を映した感じ。白内障の手術をしているので。レンズは人工レンズ。	生まれつき網膜色素変性症。2年前、退職後急激に低下、それまでは視野狭窄、夜盲症も。一人で動くこともできた。	白内障が進み、緑内障と強度の近視。右目は若いころに失明・左目はぼんやり。視野狭窄は落ち着いているが三日月の範囲くらい	50代前半。老眼鏡を作りなおすためにメガネ屋にいき眼科を勧められた。正常眼圧の緑内障と言われた。7～8年前右の中心が欠けて見えなくなってきた。	幼児期から。20才過ぎに低下。右ぼんやり、左は中心が見えにくい。視野度数は不明だが狭い。手話通訳は近くで。右0.03左は測定不能。手帳等級は1級。
聴覚障害	35歳で失聴。2級。人工内耳を1年2か月前から装用。1対1なら聞こえる。会議等はループを使っても8割程度かと。	10歳ごろから低下していたらしい(先生が気づいて親に言った)。現在は4級。協会の集まりはループ使用。	生まれつき だと思ふ。小学校の視力検査で見えにくいと検査。1mくらいなら見える。	35歳での出産後突発性難聴、その後も次第に低下。補聴器使用。会議ではロジャー使用。最近6級取得。	右が95dB、左が90dB。語音明瞭度は測定経験はない。耳元なら、聞こえる。3級で補聴器使用。	補聴器使用だが、長時間は無理。ループがあると楽。	耳は生まれつき。補聴器は小学校6年の時初めて。面倒でやめていたが仕事が向上で車等走ってきて危険なので使用した。	聴力検査には無反応。補聴器効果なし。骨伝導、人工内耳も体質的に合わない。40代で突発性内耳神経炎。	感音性難聴の診断は20年まえ。視力、聴力ともに低下は同じ頃。補聴器を使用、自宅ではうっとうしいので外す。筆談はするが、手話は勉強中で会話は不可。補聴器は効果なし	生まれた時から。全く聞こえない。手帳は1級。
通訳介助員利用	なし	なし	盲ろう者向け通訳介助でパソコン通訳依頼。難聴者向けの通訳者が盲ろう者向けに登録。手話通訳やパソコン要約筆記ができる人。別に送迎を依頼。状況説明をする人も。パソコン通訳者、手話通訳者は送迎や状況説明ができない。	買い物・病院・講演会・友の会交流会等	週に3～4回。耳元での音声通訳。盲ろう者の会の活動、受診、買い物、余暇活動なの。	利用時は耳元で復唱。	8年くらい前、52～53歳くらいから。はっきりしないがだいたい。それ以前は手話通訳を利用。	移動支援もあるので県盲ろう者友の会で通訳介助を受ける。接近手話を使うが読み取りは難しい。	現在は通訳・介助員や同行援護といった制度を利用するので不自由はしていない。同行援護のほうが多いと思う。	弱視手話。見えにくい時は触手話も使用。3人以上の時は盲ろう者向け通訳介助員が必要。病院は派遣利用。1ヶ月に5～6回利用

要約筆記利用者	よく利用。個人では手書きノートテイク。全体ではパソコン要約筆記につないでみることが多い。1対1以外では要約筆記は必要。	難聴協会の活動や相談員研修で利用。個人は使うところもない。	なし。盲ろう者向けの派遣を使えるから	手帳もなく知らなかった。もっと聞こえなくなったら利用するかも。	目の前に PC を置いてみたり大会等は最前列で。盲ろう者大会は白黒反転で文字は大きい。席は後ろだと音声通訳。	個人利用は病院や自治会。手書き NT だが、診察時は不要。	なし	障害をわかって気を使ってくれる。きょうの要約筆記は連絡が取りやすいし緊急時にも依頼している。ご縁にすぎってしまう	友の会入会前に講演に要約筆記を使った。それ以前は制度を知らなかった。スクリーンは前の方に座れば読める。明るすぎると反射して読めない。個人依頼はない。	なし
ガイド利用	なし	なし		利用なし	利用なし					なし
使いにくさと改善策	要約筆記申請は役所に行く。ファックス・メールで申請できれば。	制度や申請方法などわかりやすくなるとよい。難聴者はわからないとやめてしまうので。	パソコン要約筆記と兼務しているので行事が重なると足りなくなる。盲ろう者向け専門のパソコン通訳者はいないので派遣担当はたいへん。	通訳介助員の予算が少なく、派遣も少ない。当事者が我慢して予算は足りている(介助員談)	通訳・介助員申請は1週間前。間に合わないと個人で依頼し後で連絡。(急ぐときは介助員が空いているか確認しているー介助員補足)	制度を知らない人が多い。申請は問題ないが介助では段差とトイレが困る。	チケットは1年に1080枚、1時間1枚で不足。足りない時は堺市の通訳派遣と同行援助を依頼。	通訳介助の事務所が週に4日、10時～5時。急なときには個人的に依頼する。緊急時対応がむり。	利用しやすい。使いにくくはない。窓口担当の人が喋りやすいかどうかで使いやすさが変化する。	盲ろう者向けの手話通訳は盲ろう者への理解度によって使いやすさが異なる。
その他	要約筆記には満足している。予算はあるが利用が少ないので収まっている。		利用が少ない人には制限はない。多い人は月に80時間まで。30～40時間ぐらいなら制限なし。		予算が不足すると介助員の謝金がかかる要綱。事業開始から2回ほどあった。	当事者団体同士が予算というパイを取り合わなくていいように。他の障害のことも考えたい。		要約筆記が通訳介助員になってくれるといいが、手話ができる人という制約がある。できなくていいというハードルが高く、増えない。	派遣を利用しない人に対し、自分はどのように働きかければいいのかといつも考える。ここを紹介してもらい非常に助かったし、良かったので紹介したい	講演会ではPC要約筆記のLANケーブルに繋いで読む。盲ろう者向け通訳介助員は状況も含め通訳。

7. 全国における盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会の時間数調査

平成 26 年度「盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業」「盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業」実態調査報告書（平成 27 年 3 月 社会福祉法人 全国盲ろう者協会発行）P119～135 より研究作業委員が数値を抽出し、次の表 38 を作成した。（小西研究作業委員作成）

表 38 養成研修事業 時間数

a=予算あり 時間不明	H26 年度			H25 年度
	養成	現任研修	合計	養成
北海道・函館市	0	0	0	
札幌市	0	12	12	
岩手県	42	10	52	
宮城県・仙台市	42	8	50	
秋田県		a	0	50
山形県	42	0	42	
福島県	44	0	44	
茨城県	40	16	56	
栃木県・宇都宮市	84	a	84	
群馬県・前橋市・高崎市	58	4	62	
埼玉県	84	0	84	
千葉県・千葉市・船橋市・柏市	62.5	19	81.5	
東京都	64	8	72	
神奈川県・横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市	43	6	49	
新潟県・新潟市	0	16	16	21
富山県	48	0	48	
石川県・金沢市	22	a	22	
福井県	0	3	3	
山梨県	40	12	52	
長野県・長野市	42	0	42	
岐阜県	64	0	64	
静岡県	a	10	10	
愛知県・名古屋市	52	10	62	
三重県	a	0	0	
滋賀県	48	0	48	
京都府・京都市	84	a	84	

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・枚方市・豊中市	84	20	104	
兵庫県・神戸市・姫路市・尼崎市・西宮市	44	20	64	
奈良県	30	9	39	
和歌山県・和歌山市	6	a	6	
鳥取県	84	68	152	
島根県 現在研修は3ヵ所	60	60	120	
岡山県・岡山市・倉敷市	45	18	63	
広島県・広島市・福山市	44	0	84	
山口県・下関市	36	6.5	42.5	
徳島県	50	a	50	
香川県	0	15	15	
愛媛県	42	30	72	
高知県	40	12	52	
福岡県	a	0	0	45
北九州市	a	a	0	33
福岡市	70	0	70	
佐賀県	a	0	114	
長崎県 57H×2ヵ所	57	4	49	
熊本県・熊本市	45	4	49	
大分県・大分市	70	a	70	
宮崎県	25	0	25	
鹿児島県	a	0	0	55
沖縄県・那覇市	84	0	84	
平均	46.9	14.6	48.1	

平成25年3月に厚生労働省から標準カリキュラムが各自治体に通知されたばかりであり、また地域生活支援事業の予算上の制約もあるため、養成研修は自治体によってばらつきがあるのが分かる。

また上記の表より、時間数とその件数を抽出したのが次の表 39 である。

表 39

養成のみ		
H26 年度時間数	件数	件数
6	1	1
22	1	4
25	1	
30	1	
36	1	
40	3	16
42	5	
43	1	
44	3	
45	2	
48	2	
50	1	5
52	1	
57	1	
58	1	
60	1	5
62.5	1	
64	2	
70	1	6
84	6	
	36	36

養成 + 現任研修		
H26 年度時間数	件数	件数
3	1	2
6	1	
10	1	4
	1	
15	1	
16	1	3
22	1	
25	1	
39	1	8
42	2	
42.5	1	
44	1	
48	2	7
49	2	
50	2	
52	3	
56	1	9
57	1	
62	2	
63	1	
64	2	
70	2	6
72	2	
81.5	1	
84	5	3
104	1	
120	1	
152	1	42
	42	

平成 28 年度盲ろう者向け通訳・介助員養成講座の兵庫県の例を次ページの表 40 に示す。合計で 44 時間の研修となっている。

表 40

平成 28 年度兵庫県盲ろう者向け通訳・介助員養成講座

No	単位	月日	時間	内容	担当	備考
1		5月10日	午前	開講式・オリエンテーション		10時～10時30分
	1	"	午前	盲ろう者概論	非盲ろう者	講義
	2	"	午後	盲ろう疑似体験	盲ろう者・非盲ろう者	演習
2	3	5月17日	午前	盲ろう者の日常生活とニーズ	盲ろう者	講義
	4	"	午後	視覚・聴覚障害の理解	非盲ろう者・盲ろう者	講演
3	5	5月24日	午前	コミ技法(筆記)	非盲ろう者	講義・実習
	6	"	午後	コミ実習(筆記・PC)	非盲ろう者・盲ろう者	"
4	7	5月31日	午前	コミ技法・実習(音声・手書き)	非盲ろう者・盲ろう者	講義・実習
	8	"	午後	コミ技法(点字のしくみ)	盲ろう者	"
5	9	6月7日	午前	コミ技法(点字・フリタ・指点字)	盲ろう者	講義
	10	"	午後	コミ実習(点字・フリタ・指点字)	盲ろう者	実習
6	11	6月14日	午前	コミ技法(触手話)	非盲ろう者・盲ろう者	講義・実習
	12	"	午後	コミ技法(弱視手話)	非盲ろう者・盲ろう者	講義・実習
7	13	6月21日	午前	コミ実習(触手話・弱視手話)	非盲ろう者・盲ろう者	実習
	14	"	午後	通訳技術の基本	非盲ろう者	演習
8	15	6月28日	午前	通訳・介助員の心構え、倫理	非盲ろう者	講義
	16	"	午後	盲ろう児の教育と支援	非盲ろう者	講義・講演
9	17	7月5日	午前	移動介助の基本	非盲ろう者	演習
	18	"	午後	移動介助実習	非盲ろう者	実習
10	19	7月12日	午前	移動介助実習	非盲ろう者	実習
	20	"	午後	コミ総合実習	非盲ろう者	実習
11	21	7月19日	午前	外出実習	全員	"
	22	"	午後	外出実習	"	"
		"	午後	閉講式		15時30分～16時30分

●毎火曜日 10時～12時・13時～15時(4時間×11日=44時間)於：兵庫県立聴覚障害者情報センター

8. 全国における文字情報支援に特化した養成講習会の実施状況調査

平成 26 年度盲ろう者向けパソコン通訳者養成研修会（盲ろう者向け通訳・介助員向け追加研修）の兵庫県の取り組み例を表 41 に示す。合計で 22 時間の研修となっている。

表 41 平成 26 年度盲ろう者向けパソコン通訳者養成研修会

場所：兵庫県立聴覚障害者情報センター

平成 27 年 2 月 1 日～ 3 月 8 日（日）

回	日程	時間	時間	内容	講師
1	2 月 1 日	10:00- 12:30	2.5	開講式・オリエンテーション 盲ろう者概論 ロービジョン、弱視ろう・難聴者の心理 要約筆記の基礎 要約技術と要約筆記技術	盲ろう 1 H 要約筆記 1 H
2		13:30- 16:30	3.0	パソコンの設定（入力者用） I Ptalk のインストール I Ptalk の設定と基本操作 基本の表記（入力練習）	要約筆記
3	2 月 8 日	10:00- 12:30	2.5	パソコンの設定（弱視用） ネットワークの構築 I Ptalk の設定（入力者用・表示用） 入力練習（要約技術を使って）	盲ろう 要約筆記
4		13:30- 16:30	3.0	訂正の方法 状況通訳 入力練習（状況通訳を含む）	要約筆記 盲ろう
5	3 月 1 日	10:00- 12:30	2.5	連係入力の方法 前ロールの方法・状況通訳の復習 （通訳・介助員）前ロール （要約筆記者）状況通訳 連係入力練習（前ロールとの連携）	要約筆記 盲ろう
6		13:30- 16:30	3.0	チームワーク（3人チーム） チームの役割 3人チームでの入力（要約・状況通訳）	要約筆記 盲ろう
7	3 月 8 日	10:00- 12:30	2.5	通訳演習	要約筆記 盲ろう
8		13:30- 16:30	3.0	通訳演習 まとめ 連絡事項閉講式	要約筆記 盲ろう

	備考	講師	スタッフ	スタッフ×
開講式：0.5H 1H 1H	オリエンテーション：LAN ケーブルを次回持参すること	1H 1H		
	・タイピング速度の確認(ペア決めの参考に) ・タッチタイピングの確認効率のよい入力のヒント・単語登録 ・入力練習は要約技術を使える例文で			
1H ～ 1.5H	弱視用の PC 画面設定 例文：視覚障害なびラジオ、ほちょうきとりて、など			
1H 2H	訂正方法：F9、F11、F7			
	メイン・サブを意識して連係 場面設定：講演会 司会シナリオ + 原稿なしの挨拶盲ろう者くるかも？			
	連絡窓を使用 3人のローテーション練習(メイン・サブ・休憩)なってよでペアに入る			
	(未定)			
	(未定)			

静岡県聴覚障害者情報センターにおける平成 27 年度盲ろう者向け通訳介助者養成講座筆記通訳(パソコン通訳)の取り組み例を次ページに示す。

13:45~14:45(1時間)

盲ろう者のコミュニケーション技法と留意点(PC筆記)

14:45~15:45(1時間)

盲ろうコミュニケーション実習(PC筆記)

の2時間の講座となっている。

筆記通訳（パソコン通訳）

- 【機材】 講師用パソコン 2 台（表示用・入力用） 持参
プロジェクタ 1 台
講師の表示用パソコンを接続・壁映し入力用パソコンは、103
会議室備え付けのプロジェクタに接続・投影
パソコン（4 台）・HUB 箱（1）・長い LAN ケーブル（+ 3）
実習用
昼休みに準備（前方の空きスペースにて）
延長コード
シミュレーションゴーグル（2）

- 【教材】 テキスト「盲ろう者への通訳・介助」第 9 章 配付資料（A 4・
3 ページ）

【日程】

13:45 前の講座終了 休憩 セッティング

13:55 開始 司会より
通訳体制の確認 今から... 講師は... 配付資料確認 テキストは...
要約筆記デモンストレーション

14:00 講義

1. パソコン通訳 と パソコン要約筆記

- (1) パソコン通訳（テキスト「盲ろう者への通訳・介助」P98）
通訳者が、パソコンを用いて、発言内容や状況説明などを入力し、その画面を盲ろう者に読んでもらう方法
- (2) パソコン要約筆記
聴覚障害者（特に中途失聴・難聴者）に話の内容をその場で文字にして伝える通訳
全体投影（スクリーンに表示）とノートテイク（個人利用）がある

【利用例】パソコン要約筆記の全体投影がある現場で、盲ろう者の個人利用のパソコンを用意し、盲ろう者が読みやすい画面設定にして、要約

筆記を利用する（P99 図）

- * 要約筆記（パソコン入力）は登録要約筆記者が行う
通訳介助者は個々の利用者（盲ろう者）に合わせサポート（状況説明や介助、要約筆記者とつなぐことなど）ができるよう、概要や基本操作をおさえておく

2．機器の設定（パソコンの準備）

- (1) LAN ケーブルを使って HUB と接続する
- (2) パソコンを起動、要約筆記用ソフト（IPtalk アイピートーク）を立ち上げ
- (3) 接続の確認
- (4) 見やすい画面（背景色・文字色・文字の大きさ・行数等）の設定

3．IPtalk の機能と設定

- (1) 表示用パソコンと入力用パソコン（IPtalk を表示用又は入力用に設定する）

表示用パソコン

プロジェクタに接続しスクリーンに投影する 又は 個人利用者が直接見る

完成した文字列のみが表示される（下からスクロール）

入力用パソコン：

要約筆記者が入力する

入力・変換中の文字が表示される 入力に必要な複数のウィンドウがある

- (2) 表示用パソコンの設定

「表示1」タブ 「表示部」の設定

【 】内は参考（全体投影の場合の基本設定）

・フォント（サイズ） 【1行 15文字程度になるサイズ】

・フォント色 【白】

・背景色 【黒 又は濃紺などの暗色】

・表示部の行数 行数から行間を計算 【6～7行】

枠の操作 F1キーで枠消去・表示

接続の確認

・LAN ケーブルの接続

・「パートナー」タブ

メンバーの名前が出ているか。出ていないときは「IP 再読み込み」
「お休み」「メンバーを探す」の順に押す

14:45 休憩 実習用 PC 準備（接続は昼休みにしておく）
前列に 2 台ずつ（表示用・入力用）、2 つのテーブルに置く
受講者は 2 グループ（6 人・7 人）に分かれる

14:55 実習 表示用パソコンの設定（調整）を体験する
フォントのサイズと色、背景色・行数等を変えてみる
シミュレーションゴーグルで見る
入力用パソコンで入力した文字の表出を確認する

15:25 講義

4．環境設定

（1）コード類の処置

電源コードや LAN ケーブルが外れないこと 移動の妨げにならないこと

（2）見やすさへの配慮

画面の設定 IPtalk での設定（文字の色や大きさなど）

画面の照度（ファンクションキーで調整）

周辺環境とパソコンの設置

周囲の明るさ

照明や外光が画面に映り込まないか

他の視覚情報との位置関係（視線移動を最小限に）

* パソコンを置く位置、角度、画面の角度などを調整する

5．要約筆記について

（1）三原則「速く、正しく、読みやすく」

（2）話しことばをそのまま文字化するのではない

話しことばの特徴（一文が長い、主述のねじれ、冗長さ等）を活用し、
適切な文字数で読み取りやすい文章で伝える

（3）その場の通訳である

記録ではない ログは残さない

* パソコン要約筆記は、手書き文字や筆記に比べて、速く多くの文字を表
出することが可能。より多くの情報やニュアンスを伝えられる。しかし、
文字を読む（読み続ける）負担に配慮すること、読んで理解し、考えを

まとめる時間を確保することも必要。なくても通じることばを聞き分けて省くことで、話し手の意図を明確にし、理解を促進することになる。
* 筆記通訳ではないが、パソコンとピンディスプレイを接続することで、パソコン入力した文を点字で読んでもらうという通訳も可能

* 時間があれば、質問を受ける

15:45 終了

D . 結論

盲ろう者へのアンケート調査から、受障時期の違いによるコミュニケーションや情報獲得が多様であることが明らかになった。主たる情報獲得やコミュニケーション支援が文字である対象者は多いとはいえないが、個別性の高い支援が望まれることも明らかになった。

このことから、次の2点の作業の必要性が導かれた。

聴覚障害者への支援方法である要約筆記と、盲ろう者への文字支援の共通点、相違点を明らかにする。

要約筆記事業における実績を踏まえ、盲ろう者支援の知識、技術を新たに獲得するためのカリキュラムを検討する。

E . 研究発表

なし

F . 知的財産権の出願・登録状況

なし

<資料1>

2015年 月 日

(団体代表者名)様

特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会
理事長 三宅 初穂
厚生労働科学研究費補助金研究委員会
委員長 大沼 直紀

「要約筆記による盲ろう者支援の在り方に関する研究」に関する
調査研究アンケートへの協力について(依頼)

拝啓 時下ますますご清栄のことお慶び申し上げます。平素は本研究へご参画、ご協力いただきありがとうございます。

さて、研究作業委員会で検討を重ねました調査研究アンケートが確定し、いよいよ実施することとなりました。

つきましては、貴団体及び関連団体への送付、調査協力につきまして周知方よろしくお願い申し上げます。

アンケート送付作業につきましては全国要約筆記問題研究会名古屋事務所で行います。送付先住所等お知らせいただきたくよろしくお願いいたします。

添付書類

関連団体への協力依頼文
アンケート調査協力者への依頼文
アンケート
協力者配布の返信用封筒

につきましては関連団体へは各10部送付予定です。

<資料2>

平成 27 年 11 月 日

関係各位

『要約筆記による盲ろう者支援の在り方に関する研究』に関する
調査研究アンケート実施のお願い

特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会
理事長 三宅 初穂
厚生労働科学研究費補助金研究委員会
委員長 大沼直紀

謹啓

貴団体におかれましては、平素より障害者福祉の向上のためにご尽力されておられることに深い敬意を感じている次第です。

さて、本年度（特非）全国要約筆記問題研究会におきましては、厚生労働省科学研究費補助金を受け、現任の要約筆記者のスキルを盲ろう者支援に活かす方法の検討をしております。その検討の参考として「弱視ろう」「弱視難聴」という障害をお持ちの方々にアンケートの協力をお願いしたいと考えております。

本検討に委員をご推薦いただいております「全国情報提供施設協議会」「全国盲ろう者協会」「全日本難聴者・中途失聴者団体連合会」の加盟団体に本ご依頼文を送付させていただいております

各団体におかれましては、大変お忙しいなか恐縮でございますが、該当される方がおられましたらアンケート用紙と返信用封筒をお渡しいただけますようお願いいたします。当方の準備が遅れ、お願いの期間が短くなりましたが、ご返送期限は、11月30日までとしておりますので、11月25日ころまでには当該の方にお渡しいただけると幸いです。

お問い合わせやお送りした用紙と封筒のセットの追加請求につきましては、下記事務局にご連絡ください。

NPO 法人 全国要約筆記問題研究会 名古屋事務所 担当 尾崎 電話&ファックス：052-218-9120 メールアドレス：zenyou.kaken@gmail.com
--

<資料3>

アンケート協力者の皆様へ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、本年度（特非）全国要約筆記問題研究会におきましては、厚生労働省科学研究費補助金を受け、現任の要約筆記者の技術を盲ろう者支援に活かす方法の検討をしております。研究につきましては、全国盲ろう者協会、全国聴覚障害者情報提供施設協議会、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会等のご協力のもと検討委員会を設置し、進めております。

その検討のため「弱視ろう」「弱視難聴」の障がいをお持ちの方々にアンケートへのご協力をお願いしたいと考えております。

突然のお願いで誠に恐縮ではございますが、現任の要約筆記者の技術を盲ろう者支援に活かすため、ぜひご意見をお聞かせいただきたく、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- このアンケートは「弱視ろう」「弱視難聴」の障がいをお持ちの方がどのようなニーズをもっておられるかを知るために無記名により調査を行います。
- アンケートは表裏で10ページあります。書き終わりましたら、アンケートが入っていました封筒に入れ、切手を貼らずにご返送ください。ご回答及びご返送によりまして、調査にご同意をいただけたものと判断させていただきます。なお、未記入のもの、途中までのものでも、差支えなければご返送ください。
- アンケートを途中まで書いたけれど、不安になったとか、嫌なことを思い出して回答しなくなったりした時はやめていただいて結構です。やめたからと言って不利益は生じません。
- 調査の結果は研究目的のみに使用され個人の回答がそのままの形で公開されることはありません。
- 回答の処理からデータ保管まで、回答は厳重に管理されます。
- アンケートについてご質問等ありましたら、以下のところへお問い合わせください。

問い合わせ先：NPO 法人 全国要約筆記問題研究会 名古屋事務所

電話&ファックス：052-218-9120

メールアドレス：zenyou.kaken@gmail.com

- 調査全般にわたりプライバシー保護、及び倫理的配慮につきまして遵守いたしますので、本研究の主旨をご理解のうえ、どうぞご協力いただきたくご依頼申し上げます。
- お忙しいところ大変恐縮ですが、11月25日までにご返送をお願いします。
- 最後に、このアンケートのあと、面接調査も予定しております。面接調査（お会いしてお尋ねします）に協力できる方は、お名前、電話番号、メールアドレスのご記入をお願いします。
- なお、面接場所は、ご相談して決めさせていただきます。

平成 27 年 12 月

面接調査協力者の皆様

特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会
理事長 三宅 初穂
厚生労働科学研究費補助金研究委員会
委員長 大沼直紀

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、先日は郵送（またはメール）によるアンケート調査へご協力いただきましてありがとうございます。また、面接調査への協力のお申し出をいただきありがとうございます。面接調査ではアンケート調査ではお伺いすることのできなかつたことにつきましてさらに詳しくお尋ねする予定です。

調査につきましては、次に示しますように協力者の方のプライバシー保護および、倫理的配慮について遵守しますので、本研究の主旨をご理解のうえご協力よろしく申し上げます。

1. 日時

面接場所のご連絡をいただいたのち、面接調査日時についてご相談させていただきます。

2. 場所

聴覚障害者情報提供施設など公的な場所やご指定の場所へ担当者がお伺いします。

3. 面接の方法

調査は約 2 時間を予定しております。

委員会の担当者が 2 名でご指定の場所でお話を伺います。

要約筆記者派遣事業の利用や盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業における要約筆記（文字による通訳作業）等についてお話をお聞きします。

4. プライバシーの保護

- 面接内容は統計的に処理し、個人が特定される形では結果を報告しません。
- 面接調査協力者の面接内容や個別情報については、守秘義務を順守します。
- インタビュー調査時の録音は調査協力者の同意が得られた場合のみ行います。
- 面接中のメモや録音記録の管理については細心の注意を払い、研究終了後一定期間経過後に粉碎・破棄します。
- 面接結果は統計的に処理したうえで、発表しますが、発表の際には個人が特定できない形態で行います。

5. 倫理的配慮について

- 面接調査へのご協力は自由意思によります。
- 回答したくない質問がありましたら、無理に回答する必要はありません。
- 回答を途中でやめたくなくなった場合にはやめてもいかなる不利益も生じません。

- 調査についてご質問等ありましたら、次のところへお問い合わせください。

6. 調査に関するお問い合わせ先

NPO 法人 全国要約筆記問題研究会 名古屋事務所

電話&ファックス：052 - 218 - 9120

メールアドレス：zenyou.kaken@gmail.com

7. その他

- 面接調査に必要な通訳・介助員への謝礼につきましては、地域の実情どおりこちらで準備させていただきます。また、派遣依頼など必要な手続きについてもご連絡ください。
- 些少ですが謝礼を準備させていただきますので、印鑑をご準備ください。

